

ST通信

上杉訪問看護ステーションでは、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、多発性硬化症などといった難病の利用者様も担当させていただいています。今回は、お話ししたりお食事したりする筋、手足の筋が細くなる球脊髄性筋萎縮症の症例を紹介します。ご自宅でご家族と安心して過ごせるよう、お手伝いしたいと思っています。



上杉訪問看護ステーション 言語聴覚士 森 陽子
TEL：022-221-5568

A 病院入院中

5か月の間に3回、肺炎により入退院を繰り返していました。飲込みの力が次第に弱くなっており、飲みきれずのどに残った食物をしっかりと喀出するため、カフアシスト（排痰補助装置）が導入されました。



早くうちに帰りたい！



肺炎を繰り返さないよう、訪問看護を導入しましょう

退院前カンファレンスや、PTリハビリ見学等を行い、しっかり引継ぎました。

退院後ご自宅で

誤嚥性肺炎を起こさない！ もう入退院を繰り返さない！
その為に、**のどに絡まったままにしない！ しっかり喀出する！**

ご本人の努力

カフアシスト・吸引器を使いこなし、しっかり喀出。ご自分の状態に気を配りリスク管理しています。



機械を使わず自力で喀痰できるようになってきました



奥様の協力

ご本人をよく観察し、食べやすい食事を工夫して料理して下さいます。



のど掃除用のゼリーも奥様の手作りです



外出ではハサミ持参で小さくカット



STと共に

嚥下機能練習
呼吸・喀出力強化練習
食事方法・形態に関する助言等



状態は様々変化します。小さなことでも**情報共有**。その時々々の状態に合わせて**チームで対応**します。

看護師と共に

状態確認・早期発見
医療機関連携等

PTと共に

筋力・体力維持
歩行機能練習等



3年ぶりに家で正月が迎えられたよ！餅も食べたよ

前よりよく食べるし疲れなくなったみたい



約1年、肺炎の兆候なく、ご自宅で過ごせています。お孫さんのお世話をしたり、外出・外食したりと、忙しく過ごされているようです。これからも、ご自宅での生活が安心して送れるよう、サポートします！

